

## 萩生地区

### 最先端科学技術・産業と調和する伝統と景観のまち

#### 【2030年の将来像】

- ① 地域コミュニティが活性化し、和やかな活気ある地域
- ② 最先端科学技術が地域に溶け込み、子どもの未来を育む地域
- ③ 歴史と伝統と文化・屋敷林のある田園散居村を育む地域



#### 【地区の概要データ】

(令和2年4月1日時点)

人口 男776・女811 計1,587 世帯数531 集落数8 高齢化率31%

#### 【現状と課題】

1. 「地域コミュニティ」・「世代間交流」の活性化(誰もが暮らしやすい環境づくり)
2. 人口減少、少子・高齢化対策
3. 新たな定住人口増に資する住環境整備
4. 町内利用を促進する商業施設の活性化
5. 萩生城址公園周辺環境整備の再検証
6. 全集落の自主防災会の更なる機能強化

#### 【地区の資源・宝物】

小学校(子ども) 飯豊町起業支援施設 専門職大学 スロービレッジ エルベ 萩生駅  
 荒獅子まつり(神輿渡御行列) 子ども神輿祭り 萩生城址公園と桜 萩生石箱遺跡  
 神社・仏閣 どんでん平ゆり園と桜 屋敷林のある田園散居集落 萩生川(水源の溪流)  
 星空(天文台) 自然 水 空気 蛍 のどかさ お米 こくわ オカヒジキ  
 ひょう 炭焼き名人 地域の先生 隣組制度

#### 【地区の将来像を実現するための重点事業】

事業概要	第4次総合計画との関係	地区の役割	行政の役割
1. 計画されたプランの着実な実行を推進するプロジェクト(SDGs:17)	新規	実行組織として、以下の事業に関する部会等を設置する。	協議会の要請に応じて参加し、指導助言を行う。
2. 最先端科学技術・産業と専門職大学を核としたまちづくりプロジェクト(SDGs:4、7、8、9、11、17)	新規	企画に対し、関係者の賛同を得、会議を主催	

3. 商業施設の在り方に関するプロジェクト (SDGs:8、10、11、12)	発展	企画に対し、関係者の賛同を得、会議を主催	協議会の要請に応じて参加し、指導助言を行う。
4. 宅地分譲地・集合住宅建設に関する開発促進プロジェクト (SDGs:11、12)	新規	土地所有者と協議し土地利用計画(構想)に基づき協議	
5. 歴史・伝統・文化や観光を重視した環境整備と歴史探索プロジェクト (SDGs:1、2、3、4、11、15)	発展	部会にて計画を検証、練り直し、歴史も探る	
6. 道路に関する要望強化推進プロジェクト (SDGs:10、11)	新規	改善が見えない事項に付き、協議会から要望書の提出を模索	
7. 小規模集落の機能強化促進プロジェクト (SDGs:3、11)	新規	二集落の自主防災組織設立に向け協議会で支援	

【アクションプラン】

アクションプランのテーマ・内容	第4次総合計画との関係	実施時期	実施主体
1. 最優先 計画されたプランの着実な実行を図る、推進組織体制の確立 (SDGs:17)	新規	令和3～7年度 (重点時期3～5年度)	萩生区協議会
計画に上がったプランは、今後の萩生地区を描いたもの。地区民や関係団体が協力して推進組織を運営する ・実行組織として、以下の事業に部会等を組織して展開			
2. デンソー山形・飯豊町起業支援施設・専門職大学を見据えたまちづくり (SDGs:7、8、9、11、17)	新規	令和3～7年度 (重点時期3～5年度)	萩生区協議会
企業、飯豊町起業支援施設、専門職大学の存在は、雇用を生み住みやすいまちとなる。「子ども達の未来に繋ぐ教育」を地域・企業・大学・行政が連携し推進する。 ・専門職大学を想定した住環境整備(空き家利用のシェアハウス、高齢者と学生の協働生活) ・地域が率先し、防災用蓄電池を家庭や企業にモニターとして活用できないか提案。			
3. 地域住民が願う商業施設等の在り方検討 (SDGs:10、11、12)	発展	令和3～7年度	萩生区協議会
商業施設の活性化の為、住民(特に女性の声)と事業者の協議の場を設け、今後の在り方を検討。 ・デンソー山形・飯豊町起業支援施設・専門職大学を視野に入れる。 ・地元食材を加工し商品化をめざす。 ・通信設備のあるコインランドリー併設			
4. 人口減少ストップのもとに、宅地分譲地や集合住宅建設の開発促進を目指す (SDGs:4、9、11、12)	新規	令和3～7年度 (重点時期3～5年度)	萩生区協議会
土地利用計画(構想)を策定し、居住・商業・工業・農業・学園等のゾーニングを想定する。 ・萩生の農村景観が損なわれない秩序ある開発 ・新たな分譲住宅団地や集合住宅建設にあたっては、可能な限り民間のフリー開発を推進する。			
5. 歴史、伝統、文化(城址公園・石箱遺跡・神社・仏閣)や観光(ゆり園・散居集落)を重視した環境整備 (SDGs:4、11、12、15)	発展	令和3～12年度	萩生区協議会
第4次総合計画で地区住民総意のもとで計画した萩生城址周辺環境整備、再検証しながら要望活動を行う。 ・萩生の歴史を辿りながら地域を知る調査を行い記録に残す。それを環境整備に生かす。 ・神輿渡御行列や荒獅子祭り、子ども神輿祭り等、神社・仏閣を含め観光面でも大きくPRする。 ・萩生の宝である「ゆり園」その周辺に、春から秋まで花を咲かせオールシーズン利用出来る施設にし、直売や地元食材を加工した商品を販売する。			

6. 主要地方道・県道・町道等の整備要望活動を強化推進 (SDGs : 1、10、11)	新規	令和3～12年度	萩生区協議会
重要なライフラインである地域内道路の要整備箇所について、地域づくり座談会はもとより関係諸団体と調整しながら、所轄官庁に対し要望活動を積極的に展開するとともに早期実現を図る。 ・通学路の歩道整備と防雪柵、道路改良、信号設置等			
7. 存続が危ぶまれる小規模集落、持続可能を旗にあらゆる知恵を出し合い地域を守る (SDGs : 3、11)	新規	令和3～7年度	萩生区協議会
世帯数の減少や人口減少、そして高齢化率が高い。その改善策の糸口を見つけるため、総合的な観点から調査し研究を進める。 ・自主防災未組織地域に対し、組織化に向けて積極的な支援をする ・全地域に自主防災組織が確立したら、行政機関の協力を得て萩生地区防災訓練を行う			
以降のアクションプランは、中部地区まちづくりセンター内に設ける「まちづくり委員」(専門部会)が企画運営を行う。			
8. 地場産業の活性化を図り、雇用の拡充を目指す (SDGs : 2、6、7、8、9、12)	発展	令和3～12年度	萩生区協議会 まちづくりセンター 中部3地区共通
農業・林業・畜産業・商業・建設業・工業・介護施設等の活性化を図るため関係者の皆さんに雇用の拡大の方策を探る。身近な場所から、新鮮で、より安価な農産物を得ることができる地産地消。さらに発展させる。			
9. 美しいまちを醸し出す農村景観を維持し、おもてなしの見える、暮らしやすい地域づくり (SDGs : 2、4、8)	発展	令和3～12年度	萩生区協議会 まちづくりセンター 中部3地区共通
地域コミュニティ、SNS等々を活用し、豊かな人と人との支え合いの和を大切にします。 ・郷土料理の継承を通して、他所からくる人々におもてなしの見えるまちづくり ・美しく新鮮で、より安価な農産物を得ることができる地産地消を更に発展			
10. 高齢者の培った技術を伝承し、高齢者によりそうまちづくり (SDGs : 1、5、10、11)	発展	令和3～12年度	萩生区協議会 まちづくりセンター 中部3地区共通
高齢者だけの世帯や高齢者の一人世帯が多くなり、暮らしをとおして悩みや不安を抱える高齢者が多くなっている。そこに対応していくためにどんな施策が必要か調査し、行政に提案します。 ・除雪や移動支援・ひとり住まい・災害時の対応・子どもとの交流(昔語り、郷土料理、藁細工) ・隣近所のコミュニティを活性化・低家賃で住める高齢者集合住宅や高齢者シェアハウス、高齢者と若者の共同生活等の調査・研究を進める			
11. 農業や林業、園芸に従事する後継者育成を目指す (SDGs : 6、8、9、12)	新規	令和3～12年度	萩生区協議会 まちづくりセンター 中部3地区共通
耕作放棄地及び休耕田、山林の荒廃が増加し、農林業の多面的機能が失われつつあります。そのため子どもたちが希望を持てる農業の姿を描き実践すると共に、後継者の育成に資するAIやITの活用を研究する組織を確立します。 ・都市住民との交流(米作り体験や園芸体験ができる農園を確立) ・地場産農産物として増量を図るとともに、品質管理や販路拡大の方策、また6次産業化Iターン及びUターン者を積極的に受け入れる			
12. 毎日が安心して暮らせる地域コミュニティの醸成と、互助活動の積極的推進 (SDGs : 1、10)	新規	令和3～12年度	萩生区協議会 まちづくりセンター 中部3地区共通
コミュニティが希薄になっている今日、改めて隣近所からコミュニティを形成し、「誰ひとり取り残さない」を基本におき、お互いに気軽に声を掛け合いそして助け合い、安心して暮らせるまちを目指す ・子ども達や高齢者が困っている場面に遭遇した時は、躊躇なく手助けできる気運を醸成する			

13. 「結婚を希望する人たち」支援の輪を広げる (SDGs: 1、10)	新規	令和3~12年度	萩生区協議会 まちづくりセンター 中部3地区共通
結婚を希望する若年層や中年層が大勢存在する。地域、企業、行政と連携しサポート体制を確立する(人口減少問題に寄与し、地域の賑わいづくりへ) ・仲人役を組織化 ・地域の独身層への声掛け			
14. 他所から人を呼び込み、誰もが子育てしやすいまちを目指す (SDGs: 3、4、5)	新規	令和3~12年度	萩生区協議会 まちづくりセンター 中部3地区共通
若者が定住できるまちづくりについて、若者と意見交換する場を設け、誰もが子育てしやすいまち実現に向けて調整し、提案する ・年齢を問わず交流できる環境づくりを進める ・子ども達が、安全・安心に遊べる遊び場について地区内を調査・設置の要望活動 ・無医療地区の解消 ・今までの企業・大学交流で出された提案の検証			

【地区間連携事業】

事業概要	連携地区	当該地区の役割
ゆり園周辺に、多くの桜を植栽するとともに、近隣地区と協力しあいながら桜回廊づくりを目指し、更に桜サイクリングロードで3地区をつなぐ。 (SDGs: 4、11、16)	萩生地区 中地区 黒沢地区	
屋敷林の維持保全に関し3地区及び関係団体、行政と協力し推進する。 (SDGs: 4、6、15)		
中津川発祥の水仙ロードを町内、全てでつなぐ。 (SDGs: 4、11、14、16)	町内全ての地区	

【地区の土地利用の基本的な考え方】

飯豊町は「日本一美しい日本の村景観コンテスト」で農林水産大臣賞を受けた集落。その北部に位置する萩生はその中でも屋敷林に囲まれた住居が点在する田園散居集落です。人口も町全体の25%を占め、スーパー・コンビニ・銀行・ホテル等が主要地方道沿いの中心地に集まっています。

最近、大型工場の規模拡大・飯豊町起業支援施設それに付随して専門職大学や集合住宅等が計画されて田園に囲まれた複合的でコンパクトな街になりつつあります。萩生は田園景観と文化を生かし、最先端科学技術と共存した地域を目指し、その為に保全・育成すべき田園・森林ゾーン、伝統・文化・歴史ゾーンを明確にし、伝統文化と田園風景を「将来の子ども達のため」継承していきます。

更に最先端科学技術と共存し、新しい田園文化と経済の創造と発展のための文教、交流・商業、産業、新規居住ゾーンを確定していきます。

以上の伝統文化・田園景観と調和し、新たな教育・産業・交流振興の融和した土地利用を地域住民の参加のもとに確定し、的確で公正な事業を行政との協働のもとに誘導し、計画的で民主的公正な土地利用を進めていきます。

また、萩生の人々が安心し快適に楽しく生活できる利便性・安全性・快適性のある施設配置、道づくり等の公共施設のネットワーク化を計画的に図ります。

